

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震・能登豪雨災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024年12月25日(水)

活動隊員：網木政江

1. 活動期間

2024年12月17日(火) 8時30分～2024年12月19日(木) 17時00分

2. 活動場所

避難所：珠洲市立大谷小中学校（石川県珠洲市大谷町1字78番地）

仮設住宅：大谷町第1団地（大谷小中学校グラウンド）

集会所：大谷町第1団地集会所（石川県珠洲市大谷町1字78番地）

宝立町第1団地集会所（石川県珠洲市宝立町鶴飼丑83）

公民館：正院公民館（石川県珠洲市正院町正院22部2番地1）

3. 石川県珠洲市の被害状況

1) 令和6年能登半島地震による被害状況（12月17日14:00現在 石川県庁情報第178報）

人的被害 死者：146人（うち災害関連死：49人） 負傷者：重傷47人 軽傷202人

住家被害 全壊・半壊・一部破損：5,578棟 非住家被害：6,172棟

市町1次避難所 開設数3箇所 避難者数20人

2) 令和6年能登豪雨による被害状況（12月17日14:00現在 石川県庁情報第35報）

人的被害 死者：3人 負傷者：軽症9人

住家被害 全壊：14棟 半壊：61棟 一部損壊：7棟

床上浸水：14棟 床下浸水：185棟 非住家被害：117棟

避難所開設状況 2箇所 避難者数13人

※下線部は前報からの修正

4. 避難所の状況

【避難者数】

大谷小中学校避難所：12月17日～12月19日 登録者数14人（うち入院中1人）

【避難所運営及び生活状況】

朝の避難所運営スタッフミーティングに参加し、避難者数、避難者の移動予定（年末の居場所、退院予定、仮設への入居）、炊き出しやイベント、取材の予定等について情報共有した。ミーティング前後の時間帯に避難者、運営スタッフによって清掃・ゴミ出し等が行われていた。施設内のトイレ、洗面所は使用可能だが、戸外の仮設トイレと体育館出入り口の循環型手洗い機は災害ボランティア等外部の方も利用されるため設置されたままとなっている。入浴施設に関しては、大谷公民館で行われていた自衛隊の入浴支援が12月15日で終了し、12月18日同敷地内にプレハブ型のユニットバスが設置（運用検討中）された。避難所にもシャワー施設があるが、常駐している消防署員も利用されているため、避難所閉鎖後に撤去するとのことであった。12月24・25日には避難所の大掃除が計画されており、少しずつ準備が進められていた。

5. 応急仮設住宅の状況

【大谷町第1団地（大谷小中学校グラウンド）】

避難所運営責任者の情報より、約 38/72 戸入居されていた。雨天だったこともあり、新規入居はなかったが、入居準備のため訪れている世帯が3軒あった。ポストに名前掲示があるのは数軒で、各部屋にも表札がないため、入居者がわかりにくい状況であった。

6. 支援活動の実際

<大谷小中学校避難所での活動>

在室中の避難者へ声かけし、血圧測定、体調の変化や食欲、睡眠、活動状況等について確認した。体調不良を示す者はいなかった。また、80 歳代女性がカイロによる低温熱傷で腹部に創 3×4 cm があり、本学会メンバーが12月15日に訪問した際、創傷処置をしていたため、12月18日に創洗浄と創傷保護パット交換、19日に大谷診療所の受診につなげた。感染徴候なく経過し、受診時には上皮化も良好にて翌日からシャワーも可となった。その他、支援物資の衣服の整理などを行った。

<大谷町第1団地応急仮設住宅での活動>

12月17日、10時からの自衛隊支援終了式前後に仮設住宅を訪問し5軒、19日は11軒の方と話げできた。17日は13時からお茶会、19日は14時から大谷診療所診療日であったため、その声かけも併せて行った。また、ピースウィンズジャパンから収納棚が必要な方に支援があるため、その案内と希望の有無を確認し、取りまとめをしているささえ愛センター担当者へ伝えた。

会うことのできた方には、健康状態、受診状況、受診方法、内服薬の処方期間、生活面での困り事等について確認し、フォローアップが必要な方に関しては、ささえ愛センター地区担当者へ申し送った。「誰が住んでいるかわからない」、「部屋が狭くて物の置き場がない」という声が比較的多かった。玄関から出たところでお隣の方と顔を合わせ、知っている人だったことがわかりホッとされた場面もあった。また、大工の技術を活かして棚を自分で作成された方、入居者がわかるよう名前を入れた図面を自分用に作成されている方もおられ、工夫しながら生活をされている様子が伺えた。

<地域コミュニティ支援>

1) 大谷地区お茶会

日時・場所：12月17日（火）13時～15時 大谷町第1団地集会所

参加者数：18名（うち男性1名）

お茶会はこれまで大谷小中学校ランチルームで実施していたが、今回初めて集会所で行った。健康増進センター担当者による健康体操を約30分実施後、ピースボード、ささえ愛センター、本学会のメンバーが協力しクリスマス会を行った。茶菓子を食べながら歓談後、ビンゴゲーム、クリスマスソングを2曲歌唱し、最後にサンタクロースからクリスマスプレゼントが贈られた。会場が若干狭かったが、会話やゲーム等で盛り上がり、楽しいひと時を過ごされたようだった。翌々日、応急仮設住宅内で参加された方にお会いし、「（知人を）誘って行ってよかった。楽しかった。ありがとうございました。」と感謝の言葉をいただいた。

2) 宝立地区お茶会「集いの会」

日時・場所：12月18日（水）13時～15時 宝立町第1団地集会所

参加者数：12名（女性のみ）

血圧チェック希望者に血圧測定をした後、健康増進センター担当者による健康体操を約30分実

施後、本学会にてクリスマス会を行った。茶菓子を囲んで歓談後、クリスマスソングに合わせて体も動かした。会話の中で、0時半頃発生した地震（震度2）の話題がでたが、「携帯アラームが鳴らなかったから大丈夫と思った」「寝ていて気付かなかった」と、不安は聞かれなかった。また、震災から1年近くになりメモリアル反応が懸念されることから心身の不調についても確認したが、参加者の中には不調を訴える方はいなかった。

3) 正院町まちづくり若者ワーキング

日時・場所：12月17日（火）18時30分～21時 正院公民館

参加者：ワーキングメンバー7名

正院町住民に対し実施した復興に関するアンケート結果を、正院町のマップに落とし込む作業をされており、今回は、公費解体宅、再建予定宅、居住宅などを色分けして色塗りする作業と一緒にさせていただいた。作業を一通り終わると、ピンク色に塗り公費解体した（する）家が多いことが改めて分かった。

<大谷診療所：診療への協力>

12月19日（木）14時～16時15分

9名の受診者があった。受付業務支援、診察前のバイタルサイン測定、低温熱傷をされた80歳代女性の創部の状態と処置の経過について情報提供をするなどした。診療終了後、病院スタッフにクリスマスプレゼントを贈った。

<大谷地区住民意見交換会（3回目）参加>

日時・場所：2024年12月18日（水）18時～20時30分 大谷小中学校体育館

出席者：住民約40名、珠洲市、ほか支援関係者

大谷地区の復旧の現況、珠洲市復興計画及び大谷地区復興まちづくりの方針、珠洲市における住宅再建の支援に関する給付金・貸付制度について配付資料に基づき説明後、質疑応答が行われた。大谷地区では、これまで4エリア（①大谷、②高屋、③馬縹～笹波、④片岩～真浦）の各復興まちづくり協議会において要望・意見を取りまとめ市へ提案、今回、それらの要望・意見をもとに大谷地区復興まちづくりの方針について説明がなされた。

1) 市長から現況の説明

- ・清水浄水場配水エリアは、年内に大谷浄水場からの水を片岩、清水、仁江町まで通水する予定。
- ・馬縹町からの独立した水道システムの要望については、本復旧事業として取り組んでいく。
- ・真浦町は輪島から管を伸ばす予定だが春からでないと工事に入れない状況である。
- ・国交省から循環型上下水道システム実証実験（国費）の話があるため、真浦町住民と相談する。
- ・各協議会から要望があったが、自力再建、災害公営住宅等の議論を継続していく。珠洲市独自の「珠洲市住まい再建支援金交付事業」も設けている。
- ・馬縹町の災害公営住宅は要望が具体的であり、他地区に先行して基本計画の作成に入った。

2) 復興まちづくりの方針

- ・年度内に各地区の復興方針図を固め、復興計画の資料編として位置づける。それをもとに、優先順位をつけ予算を確保し、災害復興住宅の建設や道路の拡幅を進める。
- ・災害公営住宅については、市街地は土地が限られ多くの戸数が必要なため集合住宅を、山間部、漁村部では戸建てや長屋タイプを基本として検討している。意向調査の結果、市全体で700戸、大谷地区は45戸であった。

3) 質疑応答

- ・真浦町は電気も水も通っていない。正月くらいは生まれた家で迎えたいので、年内に電気だけでも通してほしい。水道、道路の復旧もできるだけ早くお願いしたい。
⇒被害が大きい箇所は難しいところもあるが、できることは進めていく。
- ・住宅修理の補助の制度はできるのか。
⇒制度について提示していく（一部損壊で20万円以上かかった場合、1割補助、上限30万、準半壊の場合は100万以上の修理に対し1割補助、上限30万）。
- ・土砂の撤去、公費解体が豪雨災害で延期になったが、いつやってもらえるのか。
⇒国交省による大谷郵便局までの土砂撤去が12月20日に終わった後、旧保育所周辺から海側の土砂撤去を行い、その後公費解体を進める予定。
- ・大谷地区のお寺がなくなってしまったが、地元の人々の憩いの場として、県として考えておられるか。
⇒石川県の復興基金にコミュニティ再生に対し3/4補助があるが、条件である（宗派の人に限らない）地域コミュニティの施設といえるかどうかという点で難しい面がある。
⇒住職から集会所形式で再建したい（時期は不明）という意向があるという情報がある。
- ・人がいてこそ復興だが人口の流出状況はどうなっているか。
⇒2024年1月～11月末まで転出942名、転入168名。例年の7～8倍転出が多い。1～11月末までの転出計1,132名（普段の3倍以上）。住まい、生業の再建、応急仮設住宅の遅れによる影響が大きい。大谷地区の人口は一時35%まで減り、現在50%弱まで戻ったところである。

5. 支援活動を通しての所感と課題

支援活動のため2ヶ月ぶりに訪問し、市街地の方は公費解体が進みさら地が増えたことを実感した。解体後の土地を利用してどのようなまちづくりをしていくか、若者が参画し復興に向けて活動している地区がある一方で、大谷地区のように応急仮設住宅への入居が始まって間もない地区、ライフラインが未復旧のエリアもあり、穏やかな安定した日を早く取り戻したい住民の気持ちが伝わってきた。減少した地区人口は多少回復したものの、高齢化率が高く、担い手不足や担い手の負担を考慮すると、コミュニティの再構築や復興まちづくりにおいて支援の継続が必要と思われた。今回の派遣で本災害看護プロジェクトの現地支援活動は終了となるが、被災者の健康状態や生活状況、背景は多様であるため、心身ともに健康で個々の復興がとげられるよう、中長期的な視点で寄り添い必要な支援を届けることで、災害関連死の歯止めにもつながるのではないかと考える。

6. 現地の様子



写真1. 自衛隊支援終了式後、自衛隊を見送る住民



写真2. 大谷地区住民意見交換会の様子